

## 目次

|                     |      |   |
|---------------------|------|---|
| 三戸岡道夫著『金次郎の一生』ノート   | 矢野彰教 | 2 |
| 丁度いいのが丁度いい―野口体操のおしえ | 新戸雅章 | 7 |
| イオン危機               | 賀来宏之 | 9 |

### ●メンバーの広場

|                                   |            |       |    |
|-----------------------------------|------------|-------|----|
| ネズちゃんと私                           | パート14／弟のこと | 桂 奈美  | 10 |
| 俳句                                |            | 小山美保  | 12 |
| 柴田品子の世界⑪                          |            | 柴田品子  | 12 |
| 食べ物専科6                            |            | 葉山 仁  | 15 |
| ディスコに行って救われました                    |            | 岡本桂太  | 17 |
| 3月16日(月)、今日はHappy Birthday Diary☆ |            | 丹治さゆみ | 19 |
| 西岡題歌シリーズ「おれは西岡日本の大統領」             |            | 西岡 勲  | 20 |
| 新聞作業の楽しみ                          |            | 高橋依子  | 20 |
| 時を与えた朝                            |            | 河合信行  | 20 |
| 自由俳句／インユートピックス                    |            |       | 22 |

イラスト・絵画・写真  
 ネコ魔人先生／柴田品子／小山美穂／堀慶賛／岡本桂太  
 ／宮尾俊介／津田政恵／吉田長資／高橋依子  
 表紙絵画―津田政恵

21 20 20 19 17 15 12 12 10



## 三戸岡道夫著『金次郎の一生』ノート

・・・どん底から立ち上って世のために・・・

株式会社インユー代表 矢野彰教

足柄上郡開成町に、グループホームを作る計画が具体化してきました。オープンが決まりましたら、お伝えいたします。

さて、その開成駅の隣の小田急線栢山駅の近くに二宮尊徳の生家があります。

最近、三好クリニックのライブラリーにあった三戸岡道夫作『二宮金次郎の一生』を読み、目から鱗が落ちるような感動をしました。映画「二宮金次郎」の原作でもあります。この本から感動した個所を紹介します。

生誕は天明7年（1787）相模国足柄上郡栢山村

（現小田原市栢山）

に生まれました。当時は「天明の飢饉」など飢饉、大災害、百姓一揆など頻発し、武士も藩も莫大な借金を抱え、大変な時代でした。4歳まで金次郎の家は裕福な農家でしたが、

酒匂川の氾濫で農地が流されます。1707年の宝永の富士山大噴火の後の火山灰のため洪水が起りやすくなっていました。また「栢山の善人」と呼ばれた父親は人助けをしますが散財しがちで、洪水の後の復興作業の過労で病気になる、金次郎が12歳の頃には生活は大変苦しくなっていました。このような中でも思春期の金次郎は「世の中のために尽くす」生き方を実践します。

その頃、父の代わりに酒匂川の堤防工事に駆り出されますが、大人たちと同じように奉仕できないのを苦に思い、夜、草履を編み、土手に草履をばら撒いて、使ってもらいました。やがて知られて「土手坊主」という綽名がつきます。また子守をして得た200文の賃金で松の苗を200本買って、酒匂川の氾濫を防ぐために土手に植え、暇があれば土手を見守って「土手坊主」という綽名がつきます。貧困と闘いながらも自分のことよりも世のために生きていました。

14歳、末っ子の3男が1歳になったころ父を亡くします。有名な「二宮金次郎像」はその頃の逸話です。父に代わって生計を立てるため、薪を取りに箱根外輪山の東の斜面の入会地まで4キロの道を歩き、その薪を売りに小田原城下まで8キロの道を歩きました。金次郎は父親譲りの読書家で、『論語』など儒教の本を、薪を背負って声を出して読みながら歩きました。

16歳の時に貧困の中で母を亡くします。お正月、神楽が家々に廻ってきたときに、お礼に一舞100文を出

すか、断るにも12文を出すのが習慣でしたが払えずに、神樂が立去るまで居留守を使つて家族4人隠れていました。またその年に母親は父を亡くしますが、あまりの見すばらしさに葬儀の出席を断られました。悔しさと悲しさのあまりに母親は10日後に憤死します。

追ひ打ちをかけるように酒匂川の氾濫で田畑が流され、金次郎は父方の叔父の家に、弟2人は母方の実家に預けられます。一家は離散し、金次郎はどん底の生活に。

金次郎17歳、農家の叔父の下、朝から晩まで働き、周りが寝静まつた後、読書に励みました。それを叔父に見つかり、百姓に学問は必要ない、行燈の燈油がもつたいないと叱られます。そして有名な菜種油の栽培を始めます。荒地に菜種を植えて育て、種を収穫し油屋に持っていき油に変えます。その菜種油を使つて、行燈の灯が漏れないようにして、寝る暇を惜しんで読書に励みました。

その年、植え残りの苗が捨てられているのに気づき、拾い集めて、放置されていた自分の土地に植えました。それが秋には1俵ほどの収穫になりました。このように、小さいことを積み上げ継続して大をなすという金次郎の報徳思想の柱の一つ『積少為大』<sup>（きせうゐだい）</sup>は、このころ自分の体験を通して作り上げたものです。

生家の復興に邁進

叔父の家には2年足らずで家を出て、同じ栢山村の岡部家へ奉公に出ます。生家復興のために働いて現金収入を得ます。合間に荒れた生家の自分の土地を耕し、夜は学問に励みました。

18歳、生家の荒れ地の田圃から5俵の米が取れるまでになりました。

19歳、本家の二宮七左衛門へ奉公先を変えます。生家の荒れ地の整地は一段と進み、20俵の米を収穫します。また給金や日雇い賃金は生家復興のために積立て二宮家に預けました。さらに本家のことまで考えて、本家の荒れ地に竹木を植えました。

20歳、生家へ戻り、貯めておいたお金で質流れになつていた自分の土地を買い戻しました。荒れた田畑も開墾して米を収穫しました。

21歳、小田原藩士岩瀬家へ日雇いに。合間に田畑を耕作し、荒れ地を開墾し田畑を増やし、さらに収穫した作物や薪を背負つて小田原へ行商しました。また村の者から頼まれ米の委託販売も始め手数料を得ます。米やお金を貸して利子として米やお金を得て、購入した田畑は小作に貸して小作料を得、二宮尊徳は百姓であり、勤め人であり、商人であり、金融業者でもありました。

24歳、生家の復興。1町4反5畝20歩（約1・46ヘクタール）を所有。

25歳、小作米33俵1斗、26歳小作米38俵2斗を得る自作農家に。

## 金次郎の一生

こうして栢山村で2番の大地主まで発展します。

奉公先の財政再建から小田原藩の財政再建へ

26歳、小田原藩家老、服部家に奉公し、3人の子供付きの若党として子供たちの学問のお相手をしながら、自ら儒教の四書五経を学びます。

やがてそこに仕える奉公人や女中、服部家の子弟、家老の嫡男にまで借金返済の手伝いをするようになります。次のエピソードはもはや銀行以上で、社会を生き抜くための知恵、人間教育、社会教育にまで通じます。

一人の女中が借金の申し込みに金次郎のところへやって来ます。給金はかなり先まで前借して親に渡しているので、給金を返済に回せません。そのため金次郎は給金を使わずに返済する方法を考え出します。

まずご飯を炊く時の薪の使い方を指導します。5本の薪を使っているのであれば、3本の薪で炊けるように工夫して2本の薪を節約し、その2本を金次郎が買うとい



うものです。次になべ底の煤をきれいにして熱が伝わりやすくし、薪を鍋の底に丸く置き完全燃焼させ、完全燃焼すると良い消し炭ができるので、それ使ってお惣菜を煮る。1日2本の薪を節約すると100日で200本になり、それを金次郎がお金を払って買って現金化するというものです。他にも、髪油を金次郎がまとめて安く買い、それをみなさんに安く売って、買う方も売る方も利を得ました。

金次郎に預ければ利子が増えるということが伝わって、金次郎のもとにお金が集まりだします。そのお金を借金で困っている人に貸して利子を得ます。やがて『五常講貸金』と言う個人を超えた組織、金融システムに発展します。金次郎の出資する金を中心ですが、薪や油で節約したお金や、そこで働く人たちが家来たちの貯金も出資して元金にして、必要な人には貸し出します。服部家に関係した人たちが作る相互扶助制度です。

『五常講貸金』の五常の五は儒教の仁、義、礼、智、信、の五つの徳を言います。『仁』とは愛をもつて余裕のある人がない人へ貸すという意味。『義』とは、約束を守って必ず返す。『礼』とは借りた人は貸してもらった人に感謝する。『智』とは、創意工夫して知恵を使って返済する。『信』とは、確実に約束を守って返済することです。また『夜遊び法度からくり糸』では、夜遊びをやめて金を貯めて返済するように指導しています。

両親を失い、極貧から立ち上がり、富を増やし、人々を豊かにしていく、金次郎のすさまじいまでの知恵がそこにあります。金次郎は単に勤勉で倅約家だけではありません。改善し、工夫して富を作り出して、発展させます。人生のコンサルタントでもあり、村や藩の財政再建のコンサルタントでもあります。また単にお金だけを追求するのではなく、また勤勉であるだけでなく、儒教の5つの『徳』の精神や心構えを実践し、一家や村や藩を財政再建しました。同時代に、西洋諸国がアジア、アフリカを植民地化して富を収奪し、日本へ開国を迫っている時代に、金次郎は、暴利を貪るのではなく、世のために、徳のある財政再建の法則、富の創造の法則を作り上げ実践しました。

32歳 服部家財政再建を引き受ける。

34歳 小田原藩主、大久保忠真から表彰を受ける。

35歳 小田原藩主への五常講も創設する

36歳 小田原藩主より桜町領（栃木県）復興事業が命じられ、現地調査開始。

37歳 小田原藩に登用され、名主役格に。桜町領復興事業開始。

これより栃木県を中心に破産寸前の藩や村を次々と再建します。

小田原藩主、大久保忠真は金次郎に小田原藩の復興事業をしてもらうことを望んでいましたが、農民出身の彼に対して武士の反対運動が起こることが予想されるので、栃木県にある小田原藩の領地から始めることになったのです。そしてそこから始まり生涯に渡って全国600余村を復興させます。

その方法は「分度」と言われます。藩や村の過去の米の取れ高や税金である年貢を調べ、そのデータに基づいて、年間の平均米生産量が算定され、目標とされる米の収入高を確定します。入りが決まり、次に出である、農民の生活の必要経費、橋や建物などの修繕費など必要経費を決め、さらに将来発展させるための貯蓄や借金返済額を決め、また税金である年貢高を決めました。米の生産目標が定まり、また節約するための目標も定まり、そして仮に10年計画の復興事業であれば、10年後、借金返済が終了し、米の生産量も増大し、藩や村は豊かになるというものです。厳しい節約と労働が果されるので、成功するか否かは藩や村が本当にやる気があるか、また継続できるかが問われました。

以上、三戸岡道夫作『二宮金次郎の一生』から特筆すべきエピソードを、少年時代から30歳代半ば小田原藩の桜町領（栃木県）の復興事業に至るまでを書きました。この本に出会わなければ、私は生涯に渡って、二宮

## 金次郎の一生

金次郎を本当の意味で知らずにいたでしょう。作家、三戸岡道夫氏に誠に感謝申し上げます。

その後の活躍について、この本の帯では次のようにあります。

「16歳で一家離散し、働きながら学んだ少年が、農民から幕臣となり、破産寸前の藩を次々と再建し、六百余カ村の人々を飢饉から守った。渋沢栄一、松下幸之助、豊田佐吉、中曽根康弘など、多くの人々の支えとなった『道徳の心』を広め『手本は二宮金次郎』と慕われた生涯。」

1856年、明治維新の8年前、二宮金次郎、70年の生涯を閉じました。

あとがき

私は小学校6年生の時に故郷の神奈川県足柄上郡山北町から自転車で酒匂川を下るように小田原の海岸までサイクリングをしました。途中、二宮尊徳の生家（現「尊徳記念館」）の横を通りました。小学校の校庭にあった二宮尊徳の像と結びつきました。その後、高校時代、小田原に通学しましたが、学校を下ると尊徳神社がありました。しかし一度も参拝しませんでした。なぜ二宮尊徳が神様なのかよくわからなかったからです。そして半世紀が過ぎ、二宮尊徳の偉業を初めて知って、確かに神様の領域にいつていらっしやうと思いました。

江戸時代、私の故郷の山北では、皆瀬川が現在の御殿場線に流れていましたが、1707年の宝永の富士山大噴火の後、湯

川家が浅間山の南に迂回させる治水工事をして、御殿場線周辺は豊かな水田地帯になりました。今でも湯川家は町の名士として尊敬されております。一村を救うだけでも大変な事業なのに、それが尊徳の場合は600余村を救ったのですから、図り知れません。

私も一応、経営者の端くれとして、尊徳の財政再建の方法を手本にしたいと思います。12歳の少年金次郎が子守で得たお金で松の苗を買って、防災のため酒匂川の土手に植えて育てたように、また、毎日煮炊きする薪を1日2本節約して貯蓄をしたように工夫し、小さなことでもこつこつ継続することで何かを生み出す。即ち報徳思想の一つ『積少為大』を、障害福祉の世界で生かしたいと思います。また報徳思想の一つ『分度』を肝に銘じて、お金の「入り」と「出」をしっかりと押さえて、目標を定め、事業計画を立て、利益を生みだし、障害福祉の事業を発展させていきたいと思っています。

1776年イギリスで経済学者アダム・スミスの『国富論』が出版されました。また1848年にマルクスの『共産党宣言』が出されました。二宮金次郎の生涯は1787年～1856年、前者2人の間にあってほぼ同時代です。経済や経営の分野で、世界的に有名なこの2人の巨匠よりも、二宮金次郎は偉大であると私は思います。神奈川県足柄上野に偉大な二宮金次郎が生まれ活躍したことを誇りに思います。

丁度いいのが丁度いい — 野口体操のおしえ

新戸雅章

筋肉や関節を柔かに保つためには柔軟体操やストレッチングがよいと言われる。しかし運動でつくられる柔軟さは、本当の柔かさではない。からだ本来の柔かさはもつと別なところにある……。こう批判して独自の柔軟体操を提唱したのが、体操家の野口三千三である。

若い女性が立ったまま背中をぐいっとそらせると、背骨が一八〇度曲がつて後頭部がお尻にくっついてしまふ。こんなアクロバットを見たことはないだろうか。かとおもえば、前屈でからだだがほとんど曲がらない人もいる。どうしてこんなに差が出るのだろうか。

体の柔軟性には皮膚や骨などの弾力を維持するコラーゲンが重要な役割を果たしており、その柔軟さに個人差があるようだ。コラーゲンは高齢になるにつれて硬くなるので、体操やストレッチングが推奨されているが、こうした常識に異を唱えたのが野口である。

一九一四年、群馬県に生まれた野口は器械体操の選手になり、その後体育学の先生になって独自の体操を考案した。野口の体操は、いわゆる体操や器械体操とは根本的に発想が異なっている。

◇からだにきく

野口体操の基本は「自然に貞（き）く、からだに貞（き）く」という言葉に集約される。「貞（き）く」とは、「問う」と置きかえてもよい。

私たちは脳で考えるが、ともしれば頭とからだが一体だということをお忘れがちになる。しかし、いくら頭が忘れてもからだは忘れないので、やがてストレスや病気という形で反撃を食らうことになる。では、どうすればよいのか。からだのあり方を素直に受け止めればよい、と野口は考える。からだのことはからだ自身がいちばんよく知っているからだ。つまり今の条件下でなすべきことをからだは自然に感じ取り、それが行動になってあらわれる。このような能力を野口は「原初生命体の能力」といつている。

しかし現代人はその能力を見失ってしまった。それを体操を手がかりに回復しようというのが野口体操というわけだ。

「体操とは、自然とは何か、人間とは何か、自分とは何かを探る営みである」（野口三千三）

野口はからだのあり方についてとてもおもしろい表現をしている。

人間のからだは皮膚という生きた袋の中に、液体的なものがつまっている。その中に骨も内蔵も浮かんでいる。いわば水枕のようなものだというのがだ。

たしかにからだの三分の二は水分である。骨のような硬いものはごく一部だから、そうとも言えるだろう。

## 丁度いいのが丁度いい

こうした言葉で、野口は体に対する私たちの思いこみを明らかにしようとしたのである。

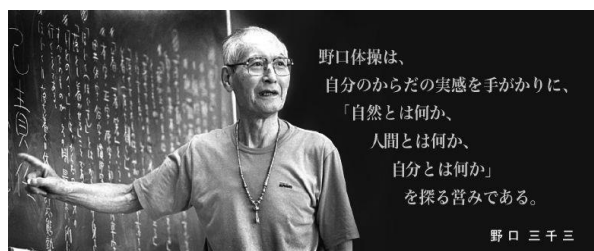
### ◇力を抜けば力が出る

野口体操では水枕の自分を意識するために、力を抜くことが徹底的に追求される。スポーツでも脱力の重要性はいわれるが、野口の考え方は基本的に異なっている。

従来の体育では動きの原動力を筋肉の収縮力に求めてきた。そこから動きをよくするには筋肉を強化すればよいという結論になる。これが大きな間違いだと野口はいう。

なぜなら動きの根本エネルギーは筋肉の収縮ではなく、からだの「重さ」から生じるからである。つまり、重さの移動によって、バランスがつけられ、こわされたりすると、その調整のために運動が生まれる。筋肉はその動きを支えるだけだというのだ。

生き物は大昔、進化によって海から陸に生活の場を移し、重力に適応しながらからだを変化させてきた。それによつておのずと柔軟で、しなやかな動きを身に着けてきた。トレーニングでつくられた筋肉の緊張は、こうした重力を利用した動きをむしろそこなうと野口は考えた。



人間にとつての本当の「力」とは、からだの感覚が豊かで、体内の微妙な差異を感じとれることだという、また、本当の柔軟さとはアクロバットのなものではなく、体内の柔らかさであり、次の変化に対して柔軟に対応できることだともいう。

こうした考え方を表現するために野口は、「による転」「ぶら上がり」「寝による」「腕ブラ体操」「肘ブラ体操」といった独特の体操を開発した。いずれもからだの有機的なつながりを重視しながら、人間本来の自然な動きを追求した体操になっている。

野口体操を実践すると、野口の考え方がきわめて合理的で、すぐれた動きを自然につくるものであることがよくわかる。まさに「力を抜けば力が出る」というわけだ。

心にゆとりをもち、やりすぎない。こうした心構えであれば、たとえコラーゲンが老化しても、からだ本来の柔軟性が失われることはない。野口体操のこの考え方は、一種の悟りと呼べるものだろう。

野口三千三は一九九八年、八四歳で惜しくも肺炎のため亡くなった。その豊かな発想が演劇や舞踏、武道などに与えた影響ははかりしれない。

「丁度いいのが丁度いい」(野口三千三)。

※「ある発明家の病理」は前号に引き続きお休みします。



## イオン危機

賀来宏之

2026年1月31日、この日は湘南大庭地区在住の人ひとりひとりにとって、決して忘れることが出来ない日となった。

長年、湘南ライフトアウンの暮らしを支えて来た、イオン藤沢店が閉店したのである。このことがおおやけになる以前から、兆候はあった。イオン藤沢店の専門店街は、先立つて2025年11月末日で閉店したのであるが、そのまえネットでイオン藤沢店の口コミを見ていると「このイオン、閉店するらしいですね」という口コミが2件ほどあり、わたしは「まさか！」と感じていたのである。

（余談だが、人生には三種類の坂があるとのこと。上り坂、下り坂、そして「まさか」である）

イオン藤沢店閉店、一応建て替えなので「一時閉店」なのであるが、大量の買い物難民の発生が危ぶまれる。わたしも、その一人……まさに「イオン危機」ならぬ「イオン危機」と言えよう。

◎苦悩と悲嘆、そして焦燥感の日々。

イオン危機のなか、やはり生活困窮者は「買い物はどこで？」と苦悩し「雨の日に食べ物がなくなったら？夏のめっちゃ暑いときには買い物はどうする？ コンビニは高い……

……」とか、いろいろ考えてしまう。しかし、とりあえず行動してみないと。

◎作業所からの帰途にて

わたしが通所している精神の障がいの作業所は藤沢市大鋸にあり、とりあえず帰り道に辻堂駅北口のラズ辻堂に立ち寄ってみた。ラズ辻堂には、アール元気というスーパーがあり、また入って左手に揚げ物中心のお得なお店があり、2Fにはダイソーも靴流通センターもある。アール元気は、生鮮食品がお得な感じがする。しかし、もしもバスを利用しないと、自宅まで果てしない道のりを歩かねばならない。

また、羽鳥の湘南中央病院の裏手にある、隠れ家的なかの著名な激安スーパー「OKストア」にも立ち寄ってみた。ここはとにかく激安であり、つねに激混みであり「とても熱量が高いスーパー」という感じがする。イオンにはなかった熱気が、ここには確かにある。また「OKカード」という魔法のカードがあり、提示するだけで（！）食料品が3パーセント値引きになる。

◎湘南とうきゅう、そしてデポという選択肢。

かつて「藤沢のチベット」と評された遠藤地区には湘南とうきゅうがあり、またさらに遠方には業務スーパー、そして高品質で知られるデポも近くにあり。湘南とうきゅうは、とにかく何でもそろそろ。ホームセンターもあり、書店も理髪店もあり、百均もある。

## イオン危機

2026年4月4日(土)現在、まだ業務スーパーへは脚を伸ばしていない。

そして、デポーは一度だけ行ってみた。我が家にチラシが投函されており、そのチラシに500円分のお買い物券がついていたのである。生活困窮者にとつて500円分お得なのは、かなりナイスな話なので、とりあえず脚を運んでみた。野菜と果物を買って来た。

◎移動販売が始まり、クリエイトも棚が増設された。

そして、3月からイオンの移動販売車が巡回するようになり、クリエイトも棚が増設され、野菜や果物を置くようになった。とりあえず、今回のイオン危機も長いトンネル(大庭隧道のことではない)は抜けた感じがする。

人間の歴史や個人の歴史にも、様々な「危機」はあると思う。宗教改革で有名なマルティン・ルターは「たとえ明日、世界が滅ぶとしても、わたしは今日一本のリンゴの樹を植える」との言葉を遺したそうである。

我が家にも、7つの植木鉢に先日、青紫蘇の種まきをした。青紫蘇の種が芽生え、苗になりイオン危機も乗り越え、成長し夏場の賀来家の食卓を賑わせる素敵な薬味になってくれることを秘かに願ってやまない。



## メンバーの広場

### ネズちゃんと私 パート14

桂 奈美

この度はネズと私の内緒の話をお聞かせします。ネズと私の秘め事。ネズを可愛がっているとネズは時々無意識に、「ウーッ」とうなります。私は思わずネズの頬をつついて、「ウーッてうなっちゃいけません。ウーイ、余は満足じゃって言いなさい」といつも言います。するとネズは「ウーイ、余は満足じゃ。言いましたよ。奈美も」と言います。私も「ウーイ、余は満足じゃ。言いましたよ」とふざけて言います。その繰り返しで二人はひと時ふざけ合っています。

それは他のぬいぐるみ達にも言えます。私



がキスすると皆、思わず「ウーッ」となります。どう  
いう訳かうなるのです。

ある時、友だちにこうなると言ったら、「何か飲ませた  
の？」と、不思議がつていました。それもそうです。ま  
るで酔っぱらっているみたいです。私のキスを飲ませてい  
るみたいです。特にネズはよく言います。よくうなりま  
す。

というところで、ネズと私の秘め事でした。

## 弟のこと

桂奈美

弟とはもう十何年も会っていない。彼が結婚したことは  
最近知った。新居を構えたいが、私には住所も教えて  
くれない。もう、私のせいでつぶされるのはごめんこうむ  
りたいのだろう。まして独り身ではないのだから、伴侶に  
まで迷惑がかかる。

私はというと、八年ほど前にハダカデバネズミのネズ  
ちゃんと結婚し、のんきに、幸福に暮らしている。弟のこ  
とはもう考えたくない。肩の重荷がとれたようにホッと楽  
になり、自分の生活を謳歌している。

昔、神戸で暮らしていた私は、遠く離れた東京で暮らし  
ている弟の身をいつも案じていた。ある時、幸田文の

「弟」という小説を読み、「じいねえ、足さすって」とい  
う下りで弟を思い出し、東京で可哀想な目にあっていない  
かと心を痛めたことがあった。再会し、それが事実である  
と知った時、私は狂わんばかりになった。そして本当に精  
神的に狂ってしまった。

弟はそれでも勉学に励み、東京芸大に進み、大学教授と  
なり、今は無事結婚するまでになり、安定した生活を送つ  
ている。彼の今日までの努力、精神面の苦勞は言うに及ば  
ない。文字通り辛酸をなめたことと思う。

弟が芸大准教授になった頃、ずっと物を送ったり、手紙  
を書いたり、私なりに弟のために心をくだいた。住所もそ  
の頃は教えてくれていた。

でも、もうさようなら。お互い別の人生、道を歩き始め  
たのだから。

幼い頃から一風変わったアスペルガーだった弟。これか  
らは人並みの幸福な生活、人生を送って下さい。祈ってい  
ます。

姉より

## 俳句

小山美保

蟹食べて吾美食家と豪語する

螢火や夕餉と共に楽しめむ

田植え来て田んぼは嫌いだと泣き叫ぶ

八つ手の葉天道虫がポツと有り

百合の花立てば芍薬座れば牡丹

桜咲くコネで入りしリクルート

青田刈りリクルートスーツ早も着ぬ

送迎の車に乗りて語り来る

俳句の日勇んで出かけノート持ち

病床の友の知らせに一憂し



## 柴田品子の世界⑪

### 母の子育て名(迷)言集

私の姉弟は七人姉弟だった。私は上から二番目である。私は自閉症が入っているため、自分だけの世界に入っていることが多かった。

#### ●私に対する言葉

・「馬鹿で馬鹿でしようがねえが、この馬鹿！」

と、私はしょっちゅう怒鳴られていた。学校の勉強の馬鹿ではない。生活上の馬鹿である。私はこの言葉を身に受けて育った。

私は赤ん坊の時、麻疹に肺炎を併発させて四〇度の熱を出し、目も目病みで見えない程になったのに、口だけは動かしていたという。要するにどういう状態でも食べることだけは止めなかったようである。そのために死ななかったようである。そして赤ん坊の時あまりにも重かったので「ぶん投げたかったが」なにしろ赤ちゃんコンクールで優勝したぐらいだから、かなり重かったのである。

・そして「馬鹿、おかしい、変わり者」と何かにつけて言われていた。

そのため、私は自分が馬鹿でおかしくて変わり者なんだと思っていた。ただ、父親は指定皆を公平に愛してくれた。これ

は私にとって幸いした。極端な落ち込みにはならなかったし、ひねくれなかったようである。

・「まったく猫のように飛び出すんだから…」  
私は自閉が入っているため、突発的に行動することが多かった。

・「お前は食いに生まれた」  
今でも調子に乗るとよく食べる。そして自分好みの料理をよく作って食べている。そのうえ作って人に食べさせるのも好きである。

・「カズだけはお膳の前に座って待っている」  
食事の前、皆、遊び回っているのに、私だけはお膳についていたようだ。

・「お前は指が六本ある」  
手が大きいからであるが、この言葉に私は非常に傷ついた。

・「魚の食べ方が上手い」  
何てことはない。食べられる部分は残さず全部食べたただけなのだが…。

そして傑作なのは、五、六歳頃の時であろうか、お母さん連中が集まって井戸端会議をしている中、子供達が皆で遊んでいる中で、男の子達がオラのおしっこは良く飛ぶ、オラのも良く飛ぶと話しているのを聞くやいなや、私はやったのである。隣の中村さんの開け放たれた廊下で、「オラのも飛ぶぞー！」と、やにわにパンツを脱ぎ捨て、座り込んで大股を開いて…。

本当に飛んだのである、遠くまで。そうすると皆大笑いしている中、当然「この馬鹿！」と母の声が飛んでくるのである。本当に飛んだのに、なんで笑うんだろうと私は思ったのだった。他にも私はある日、旅に出ようと思っていた。行つたのである。隣の町の本家まで。誰にも告げず、歩いて…。電話があまり家庭に普及していない頃だったためであろうか、皆大騒ぎになったこともある。かくれんぼの最中に本当に寝てしまったこともあった。その度に「馬鹿で馬鹿でしようがねえが」と母は言ったことだろう。

しかし母はしみじみと言ったのである。

「馬鹿ほどかわいいうて云うけどホントだがな……」  
実感だったようである。

#### ●子育て中の言葉

皆遊びに興じて笑い合っていると、「どうせそのうち泣き出す子が出てくるが…」大体、本当に泣き出す子が出てきた。子育てに疲れてヒステリーを起こすと、「もうどの子もどの子もしょうがねえんが！」すると皆で黙々と洗濯、掃除、食器洗いに精を出すのである。

#### ●三番目の妹に対する言葉

「この子はひとりで生きていける。群衆の輪の中から人を押しのけて出てきた子がいいた。誰かと思ったら我が子だった」  
妹は大人になってから私に手をかけてもらえなかったと、何度も嘆いていた。

・「本を読んで気が付かなかった方が悪い」

妹は本を読むことが好きなので、何回もこういう目にあったらしい。一人分だけ取っておいてくれても良かったのにと、これ何度も嘆いていた。

●姉に対する言葉

・「直子は一目一聞きだ」

姉は超美人でクラス委員、バレエ部の部長を務める学校のスターだった。私はこのため、お姉ちゃんコンプレックスに陥って長い間苦しんだ。先日、姉に聞いてみたら、体の方が先に動いてしまっんだと言っていた。頭が良いのだろう。

・「直子には宗教が必要だ」

姉はずっと若い時から創価学会員として真剣に活動している。

母の言葉は七人の子育てを背一杯やったからこそその言葉である。言いて妙である。最後に面白い言葉を消化しよう。

・「カズが一番自分に似ている——???’」

人間は皆おかしい

人間は皆おかしい

自我と自我のぶつかり合い

火花が散る

バツ、バツ、バツ

魂が叫ぶ 自分の方が正しい!

憎い、悲しい、馬鹿野郎!

複雑ね

自分の方が正しいと途方もなく彷徨う

闇の中、光射す中

酔っ払いながら叫ぶ

正しいのは自分の方!

価値観がそれぞれずれているだけなのだが!

相手の立場も考えてみれば

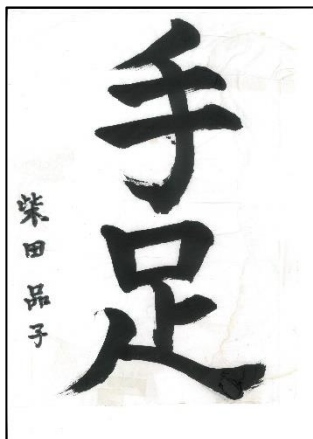
心と心が溶け合う時や

楽しい時もあるのだが:

人間は皆おかしい

彷徨いながら人生を<sup>たくま</sup>逞しく生き抜いている

神が天で笑っている



## 食べ物専科5

葉山 仁

### ●野菜と野菜ジュース

春は野菜サラダの季節、野菜サラダと言えば野菜ジュース。野菜食べていますか？そう、野菜ジュースでよいのだ。トマトジュースが安く売っている。Amazon。



Amazonではないものがないという感じで大概のものは手に入る。あのサラサラトマトジュース、美味い。秦野にいたときはイオンで買って水代わりに飲んでた。そうなのだ、いまは野菜ジュースをスーパーで買えばコーラより安いのだ。今月も残りのお金があと少し、頑張つて行きましょう。

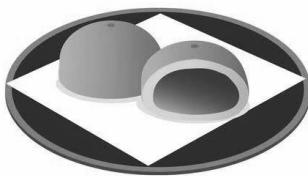
### ●カップ麺

ついに小生もカップ麺デビューですね。この歳で三度の食事は多すぎる。でも腹は減る。そんな時はカップ麺が

ちようどいい。昨今ではカップ麺も200円を超える値段だ、おいそれとは手が出ない。それでも安いカップ麺を常備。ここ最近の小生の食生活である。

### ●ワンカップとまんじゅう

今年も桜の季節も終わり、新年度の儀式はみんな終わった。まあ春と言えばお彼岸なのだよ我々は。今年の彼岸も墓参りに行っていない。そういえば、藤沢に戻ったとたん死んだ親父が夢に出てきたんだけど、申し訳ないのだけど墓参りに行く金がない。おふくろに言えばある時に来いというだろう。ただ、うちの墓参りにはいつもワンカップとまんじゅうをお供えする親父とおふくろの分。そうだな今はいかれないな。近くて遠い実家なり。が、やっぱり気になってちゃんと行つて来ました。今年はワンカップ2本とまんじゅう2個なり。



## メンバーの広場

### ●不二家のケーキ

最近、甘いものを食べに不二家に行っているさすがにケーキの食べ放題は食べないのだけれど、毎日何事もなく暇な日々を送っていると自分にたまにご褒美をやっていないことに気が付いた。やはり自分へのご褒美は食べるものがよいね。服とか機械ものとかはどうも褒美にありついた気がしないからな。しかし、ケーキ一つ700円。ファミレスに行くのに一回千円では行かれない世知辛い世の中になったものだ。この物価高生保のほうも上がってほしいものだ。頼みます。自民党。岸田さん。

### ●カップ麺2

カップ麺も昨今では種類が豊富になった。というのはこの間ある方からカップ麺の差し入れを頂いた、それは韓国の焼きそばみたいなものから定番のカップヌードル、はたまたビーフンまで多種多様なカップ麺の数々があった。ちよつとしたお宝を頂いた気分だった。嬉しく美味しく頂いた。韓国のやつはなかなか不思議な味で美味かったな。ありがとうございます。

### ●アイスクリーム

暑い、兎に角暑い。こ

の夏は毎日30度越えの暑さが続いているこんな日はコンビニのアイスが食べたくなる。最近



は食品、日用品の日々の値上がりの中でかなりお金の使い出がないそんなコンビニの箱のアイスは6本入りで260円貧乏人の見方であるアイスクリームなんて子供の食べ物なんてこともないので、体を冷やすにはもってこいでひと箱で足りないくらいである。(今は315円)

### ●冷凍食品

最近の食事のおかずは、また冷凍食品を買っている。ちよつと前までは松屋の牛丼を取っていたけど最近はおロッケやハンバーグとかつかつなどの冷凍食品を買った。毎日のことだから安くて美味しいものを食いたい。そんな時は冷凍食品が本当に便利なのだ。しかし、来月は松屋の牛丼を取ろうと思う。松屋の牛丼は本当においしい、そして、便利だ。

以上23年夏



ディスコ行って救われました☆(＃>・>＃)♪

岡本桂太

僕は十代の頃、ちょうど高校生一年かな☆

ちよつと親に毎回叱られていたので、発散する場所がなくてイラついていたら

友達と初めてディスコに行きました。

その名は藤沢にあった万華鏡です。ちよつとひわいかも知れないが。

僕はディスコの万華鏡にハマってしまい、毎週土曜日に踊りに行き通っていました。

ストレス大発散出来ました。

ただまだニステップしか出来ず満足いってないし女の子にもあまりモテ期ではありませんでした。

そうそうまだ子供なのにお酒のコークハイが無料で何杯も飲めたのでたくさん飲んでいました。

おまけにかっこつけの為にたばこも吸っていました。主にキャビンマイルドでした。

時たま東京の方からダンスがプロ並みに上手い奴が来ていたの  
で、僕も踊りが上手くなりたいと東京の新宿歌舞伎町東亜会館  
GBラビッツと言うディスコに通い始めました。

初めて入ったとき僕の心に衝撃が走りました。

まずお酒も食べ物も飲み放題食べ放題でオールナイトでやっていました。

そして音楽がノリノリでスピーカが僕の背よりもでかく等身大で一番驚いたのは

屋根の柱が音楽に合わせて上下左右にガンガン動き柱についている電球がキラキラ光り

DJもすごく上手くノリノリで、あと女の子だらけでミニで、まるで別世界パラダイスに来たみたいで、すごく心の底から感動しました。

そこに踊りの上手い兄ちゃんが踊りを競い合っていました。

そこから毎日踊りの練習をして足の骨にヒビが入りそれでも練習しました。

医者に行き、もう当分ディスコに行くのはやめなさいと言われたが、その週にディスコに行きました。

そして練習の成果が出てブレイクダンスや、僕特有の足を素早く交差して持ち上げるという普通の人がやっても出来ない踊りが出来るようになり、バンブやステップやパラパラも覚えまして！

いつもお立ち台で踊っていました。すごくカッコいいよ☆  
(＃>・>＃)♪

## インユートピックス

ディスコの曲ではデッド・オア・アライブのユースピークミールランドやラバカンバックトゥミミその他いろいろありますよ！主に速いテンポの曲がいいです。踊りやすいです。

僕はスマートで痩せていたのでお洒落な紫のスーツを着てキラキラのアクセサリーを付けて髪型も茶髪でカッコよくキメていました。

いざ本番☆上手く踊っている奴の隣に行きケンカディスコをして体力もあり勝負で勝ちました。

そしたら次々と僕に踊りの上手い奴が勝負仕掛けてきたけど全て勝ちましたよ☆余裕でね！

周りの皆は拍手や口笛を鳴らしたり女の子がたくさんよってきてチーク踊ろう、チークしようと言ってきたので当然チークしました。いけないこともしちゃったよ♡

毎週、土曜日にGBラビッツに通い入った途端に毎回女の子に逆ナンされました。

でも僕は、毎回本当は踊りを見せつけにきたんだよ！  
(#>.<#)

ディスコが終わった後、シャツを脱いで絞ったらビシャビシャに汗が出て、今日買った靴の底に穴があいていました。



その後の女の子とはご想像にお任せします😊

新宿歌舞伎町にはニューヨーク・ニューヨークやゼノンやビバやグリース、センチャリー21やその他、一つのビルに何個もディスコがあり、全部とりあえず行ったがやっぱり一番良かったのはGBラビッツです。踊っている時に皆、男も女の子もエロい言葉を発していたのを思い出します⑧

今でも僕の心の中で踊ってますよ(#>.<#)

たまに今でも東亜会館のディスコの同窓会がやってます。二回行きましたよ(#>.<#)

大人になった頃に六本木にあるマハラジャのディスコから復活祭の招待状が届き、思わず踊りにいっちゃいました。行く前に道路で黒人が踊っていたので僕も勝負して踊りました。勝ったけどね！

ちょうど復活祭だったのでZOOのサツキさんが来ていましたし、テレビ局も雑誌社も来ていたので誰も踊っていないフロアを独占して踊り、テレビにも映ったし雑誌社のインタビューに答え

GBラビッツ最高！と言ってやったよ♪ここはマハラジャなのに☆

誰よりも幸せでしたね☆(#>.<#)♪

PS…今、僕の踊りたい方は教えるよ(#>.<#)

3月16日(月)、今日はHappy Birthday  
Diary ☆

丹治さゆみ

今日初めて日記を書きます。さゆみこと、たんじろー  
デス。

今朝は早くからどん天。夜は雨が降っていたらしい。  
私は八時半頃、自転車ですべて行こうと思いついて、  
明け(night shift)の職員さまに出発の儀を告げた。  
(大げさですね！)。

そしてさんざん心配されて、止められたにも関わら  
ず、インユーへ向かうべく自転車をこぎ始めた。

大通りの車の通る大きな音を物とせず、果敢に自転  
車を走らせ続けた。そうしたら昨日飲んだアルコール類  
(濃いレモンサワー。ショート缶のみだが)の悪行で、  
身体がとてもかたくなった……。だるい、だるい。  
私は必死だったが、きつと戻ってしまうと、ふとそれが  
頭をよぎった。

舞い戻ろうと大通りの車が絶えるのを待っていたら、  
中規模トラックのドライバーさんが、私のためにと道を  
譲ってくれた。これはミラクルだった。このドライバ―

さんの善意が、心づもりを立て直してくれた。私は再び  
インユーへと走り出した。

インユー近くのKEY・S cafeでチャイティー四〇〇円  
のホットを飲み、フリーWi-Fiをつなげてから、店員さん  
にほえまれたり、心のこもったお茶をいただいた。九  
時三〇分になる頃キーズカフェを出て、「整ったー！」  
と心の中でガッツポーズ。

インユーでは厨房作業もしつかりと手伝い、H君やM  
君との会話も弾み、楽しい半日だった。

行きはよいよい、帰りは怖い。怖いながらも通りゃん  
せ……。

とりあえず今回で私たんじろーは自転車は少々こりま  
した。(汗)!!。自力とは大変です。こりた。まいり  
ました。今からH君とカフェでゆっくりしようと思ひ  
ます。できたら手伝い作業もしたいかな!!

余裕ある人には遠い私の人生……。まだ、ゆっくりし  
てはいられないんです。

帰りはしっかりと自転車。交通ルールを守って、青切符  
を切られないことを祈ります。

今日は三六才午年、年女の女子さゆみ氏でした。♡  
インユーの皆さん、いつも明るく接してもらって、あ  
りがとうね。

3/16日、丹治さゆみより。

西岡主題歌シリーズ

♪オレは西岡 日本の大統領♪

西岡 勲

一・ここは神奈川 藤沢市

一人の男の 物語り

その名は西岡 西岡という名

おいらは いつでも 日本の大統領

二・ここは藤沢の インユーさ

スケベな男の物語り

その名は西岡 西岡という名

おいらは インユーの 大統領



新聞作業の楽しみ

高橋依子

ここ最近、私はインユーで新聞作業に力を入れています。私が作る新聞は、掃除やオムツの始末や生ゴミの臭い取りに使用しているそうです。

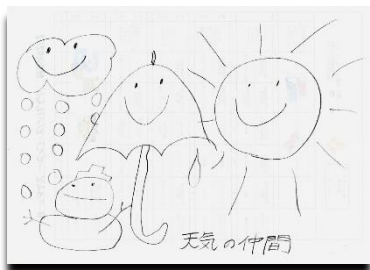
——生ゴミの臭い取りは、例えばゴミ箱の下に敷いて使います。紙は臭いを早く吸い取ってくれます。また、お皿を包むのにも使います。大事な「モノ」を長く使うのに便利です。



一日で作る新聞の数は50です。自分の片手分の量が約50枚です。

これからも楽しく新聞作業をしていきたいと思っています。

「ありがとうございます」



時を与えた朝

河合信行

スピードアップした私の手の動き  
あなたは見えるか

じぶんで創った左手 辛く耐えた

5年間のレッスン

あまり健康的でない私の手は

色々な苦難を突破してきました

時を与えた朝 私は恥ずかしさと

不安の中で 揺れ動く

かすかな喜びが 耳に友の笑い声

となつて聞こえてくる

行け 今こそ時を与えた朝に

目覚めよ 誓いの友と冬の旅に船出だ

\*

宝物どこにあるのか

探すより

手の中にある

それを知ってる？

別にその

深い意味など

ないんだよ

只少しだけ

格好付けたい

思い出が

いっぱいになる

ダンボール

藤沢病院

退院準備

覚悟して

今生き抜くぞ

痛みとは

命の誉れ

姉供養かな

無理をして

交流をして

恥をかく

その恥こそが

生きる力へ

## 自由俳句

夕立に窓開けつ放しでびしょ濡れ  
白百合をしゃがんで撮ったよ 奇麗だな

しゅんすけ

青蛙 田んぼ虫らを食べ比べ

櫻(けやき)の木 若葉の芽が出て目に染みる

豊

夏が来てニコニコニコしていたい

千佳

風薫る レッスン楽しピアノ弾き

八つ手の葉 天道虫がポツと有り

田植え来て田んぼは嫌と泣き叫ぶ

蛍火や夕餉を共に楽しめむ

美保

シャキシャキのウォーターメロンの甘さかな

遊び来て夜道を照らす蛍の火

そこにいるあなたの姿 百合の花

はやま

(腹立つて蓮華(れんげ)畑(ばたけ)で大暴れ

紫陽花は 雨が際立つ成就院

梅雨入りは読書の時にちょうどいい

シャンゼリゼ 人が行き交う夏の夜

西岡勲

さくらんぼ二つに分けて味わいて

クーキ食べ五月は私の誕生日

レモンティーが大好き 春の海

コーヒーが大好き 夏の海

お弁当が大好き 秋の山

散歩が大好き 冬の山

さやか

春の坂コーヒー飲んで走りけり

淡き陽の緑の中に父と居て

ひきがえる殺してしまいごめんなさい

新茶ばかり買ってダイエッター

くもくもくも曇り空は気が滅入るね

蛍の墓の映画のような少女いる

旧校舎 枇杷(びわ)の実食べ美味い

夏の月どんな夜にも思いが残る

インユーへ行きはよいよい帰りは涼し

みんなのお空 雨のち晴れて虹かかる

夏草よ私と彼の散歩道

丹治さゆみ

夏祭り勇まし姿 良き型(かたち)

花曇り ガクアジサイ くつきりと

草取りのあとの姿や清々し

梅雨入りや洗濯物が気にかかる

庭先に目を曳くイエロー百合の花

買い物や知らず知らずにかく汗よ

柴田品子

# インユートピックス

藤沢市展に5人のメンバーが出展

二〇二五年六月に藤沢市民ギャラリーで開催された藤沢市展に、メンバーの柴田品子さん、堀慶賀さん、津田政恵さん、宮尾俊介さん、岡本桂太さんの五人が絵画作品を出展しました。昨年は二名の出展でしたが、今年は参加者が二倍以上に増えました。柴田さんの作品はメンバーの一人をモデルにした肖像画の力作。モデルをよく知るメンバーたちから、特徴をとらえていると絶賛されました。もちろんモデルも大満足でした。堀さんの作品は大正浮世風美人画の模写。生き生きとした筆遣いと鮮やかな色彩が目を引きまします。

宮尾さんの作品は丁寧に書き込んだキャラクターを画面いっぱいに展開したユニークな作品。岡本さんの作品は赤を基調とするかつこいい肖像画。モデルはミュージシャンの石井竜也氏。



市展の作品の前で

津田さんの作品は可愛い動物が大集合のメルヘンチックな作品。  
どれも個性あふれる素敵な作品に仕上がっていました。

山北陶芸展を鑑賞、帰りはさくらカフェに

六月、調理担当で陶芸家の山本渉さんが、山北の自工房「つぶらの窯」で恒例の陶芸展を開催しました。

陶芸生活五〇年余り。鉄分を含んだ土と炎が生み出す、温かみのある日常使いの器や茶道具が好評を博しています。

今回も茶碗、皿、水指、花瓶、鉢、マグカップ、お猪口など、多彩な作品が展示されました。

「使いやすい器を作る事を心がけています」と山本さん。



## 編集後記

最近のインユートはとみに芸術づいて、藤沢市展にもたくさんの方の応募がありました。それ以外にも日常的に作品が事業所に持ち込まれています。それらは、玄関正面の展示コーナーや壁面に順次追加しています。

そうした雰囲気の影響もあってか、今号は常連に加えて新人の寄稿が多く、誌面に載せきれないほど。嬉しい悲鳴をあげるようになりました。

今後も多くの方の寄稿を期待しています。